

令和8年度要望課題の傾向と対応

農業部門

1 要望課題の検討経過

各部門（作物、野菜、花き、果樹、畜産、茶業、環境基盤、経営）の担当者が、令和7年6月から8月にかけて要望者と連絡をとり、具体的な要望を聞き取った。それらをもとに、各部門別推進会議（7月から9月）において、要望ごとの対応方法や研究課題化する際の研究目標等について検討し、回答案を作成した。その後、10月8日開催の県庁各課及び農林水産事務所農業改良普及課、農業大学校を構成員とする農業専門分科会での検討結果をふまえ、各要望課題に対する回答を作成した。

2 令和8年度要望課題の傾向及び課題化の視点

（1）要望課題の傾向

124課題の提案があり、前年（122課題）とほぼ同等であった。要望課題の内容は温暖化対応、低コスト・軽労・スマート技術導入を含めた生産技術開発、品種開発及び系統造成、病虫害及び鳥獣害対策、有機農業等と多岐に渡っていたが、何らかの形で温暖化に起因する問題への対応に関する要望が38課題と全体の3割を占めていた。

今回の要望では、単独の部門では無く、複数あるいは耕種全体に投げかける要望があった。このため、そのような要望に対しては複数部門で各々の対応を協議した。この結果、部門、分科会毎の検討課題数は作物部門19課題、野菜部門26課題、花き部門19課題、果樹部門19課題、畜産部門19課題、茶業部門3課題、環境基盤部門生物工学分科会3課題、同作業技術分科会2課題、同環境安全分科会3課題、同病虫害分科会14課題、経営部門3課題であった。

内容としては、前述した生産技術開発に関する要望が81課題と過半数を占めた。次いで、品種開発及び系統造成等育種関係の要望が、作物（3）、野菜（4）、花き（5）、果樹（2）、畜産（4）の18課題、病虫害対策は14課題（生産技術と重複有り）であった。それ以外には、有機農業、環境保全、鳥獣害対策の課題（一部生産技術と重複）が計11課題あった。生産技術と育種はその4割程が温暖化対応するための要望であった。

（2）課題化の視点

84の要望課題について課題を設定した。うち31課題は、公募事業への応募等も含めて新たな課題を設定し、53課題は現在実施中の課題の項目に位置付けて実施することとした。

設定した84課題の試験研究基本計画2030における試験研究体系の柱毎の区分では、「農業イノベーションの創出」が8課題、「環境との調和による農業生産の実現」が42課題、「あいち農業の競争力強化」が19課題、「品種開発で魅力ある農畜産物の創造」が15課題となった。